

英語科学習指導研究委員会

一 テーマ

進んでコミュニケーションを図ろうとする外国語活動・英語学習のあり方～小中連携を通して～

二 テーマ設定の理由

小学校は、来年度から新学習指導要領が実施される。自主的・対話的で深い学びを実現するための英語学習が求められている。お互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動の工夫や、必要感のある場面設定、指導・支援のあり方について、小学校、中学校でそれぞれ実践を重ねていくことが必要である。また、5・6年生の授業では、チャンツや会話活動など音声を伴う活動だけではなく、文字を書く活動も取り入れられ、より四領域を意識したものとなっている。一方、中学校としては年々受け入れる生徒たちの英語学習の経験内容が変わってきていることについて、十分に理解する場が少ない。昨年度も取り組んできたが、小学校・中学校それぞれがどのような学習活動を行っているのか、授業を互いに見て連携していくことが、今まで以上に必要である。

外国語学習において、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿を育てていくことはどの学習段階においても共通の課題である。そこで、小学校・中学校の職員が共通課題を意識しながら、指導方法を模索していくことで、より効果的な連携のあり方が見えてくるのではないかと考え、本テーマを設定した。

三 研究の経過

第1回	令和元年5月10日(金)	総委員会	研究テーマ設定と研究計画の作成	(教育会館)
第2回	令和元年6月19日(水)	教育課程研究協議会	事前研究授業	(北御牧中)
第3回	令和元年6月27日(木)	同上	事前研究授業	(塩川小)
第4回	令和元年7月8日(月)	同上	午後の部の持ち方について	(教育会館)
第5回	令和元年7月11日(木)	同上	事前研究授業	(北御牧中)
第4回	令和元年7月17日(水)	同上	午後の部の持ち方について	(教育会館)
第6回	令和元年9月5日(木)	教育課程研究協議会	午後の部の運営	(塩川小・北御牧中)
第7回	令和元年11月28日(木)	総委員会	研究のまとめ 発表会準備	(教育会館)
第8回	令和2年1月16日(木)		研究のまとめ発表会の準備	(教育会館)

四 研究の内容および成果・課題

1 教育課程研究協議会 塩川小学校の実践に学ぶ

(1) 単元名 Let's Try1 Unit5 『What do you like?』

(2) 単元設定の理由

子どもの実態【外国語活動での児童の姿】

○外国語活動を楽しんでいる子が多い。
○ALTのアイナ先生との授業を楽しみにしている。
○歌やチャンツや、インタビュー活動にも意欲的である。
△様々な活動の中で、自分から進んで友達と関わりにくい子もいる。
△「英語でどのように言えばいいのか分からない」「英語で何を言われているのか分からない」ため、英語を口にすることに消極的になってしまう子もいる。

単元のねらい（単元のよさ）

○自分や友だちの好きな動物・食べ物・色・スポーツ等、身近な話題なので、気軽に聞き合える。
○好きなものを聞き合うことで、今まで知らなかった友だちの一面が分かり、互いにクラスの仲間意識を深められる。
○チャンツやインタビュー活動などを繰り返すことで、「好きな○○は何ですか？」の言い方や答え方に慣れ、自信をもって会話することが、期待できる。

目指す（願う）子どもの姿

◎友だちと繰り返しやり取りする活動を通して、英語で「好きなものを質問できた」「答えられた」という達成感をもちながら、質問したり答えたりできる子ども。
◎恥ずかしがらず声に出して友だちと英語を話したり、聞き取ったりする関わりを通してより一層友だちとの仲間意識を深め、「もっと話してみたい」「もっと話せるようになりたい」と願う子ども。
◎単元の学習を通して、聞き手の理解の状況を確認しながら話したり、相手の発話に反応しながら聞き続けようとしたりしながら、様々な人とコミュニケーションする楽しさを味わえる子ども。

(3) 単元の目標

- ・日本語と英語の音声の違いに気付き、身の回りの物の言い方や、何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。（知識及び技能）
- ・何が好きかを尋ねたり答えたりして伝え合う。（思考力、判断力、表現力等）
- ・相手に伝わるように工夫しながら、何が好きかを尋ねたり答えたりしようとする。（学びに向かう力、人間性等）

(4) 評価規準

(知識・技能)

- ・What で始まる疑問文について知る。（ア）
- ・自分や相手のことについて What ○○do you like～? を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合う技能を身に付けようとする。（イ）

(思考・判断・表現)

- ・友だちの新しい一面を知るために、自分や相手のことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合っている。（ウ）

(主体的に学習に取り組む態度)

- ・友だちの新しい一面を知るために、自分や相手のことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合おうとしている。（エ）

(5) 単元展開の概要

時	学習活動	評価
1	<p>Today's Goal 「何が好きか(What ○○do you like?)」をたずねたり、答えたりする言い方(I like □□.)を知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> Lesson Goalを伝える。 「何が好きか」を友だちとたずね合い、友だちのことをもっと知ろう」 <p>○HRTとALTの会話から活動への見通しをもつとともに、身の回りの物の言い方を知る。 【Let's Play】p.18, 19</p> <ul style="list-style-type: none"> おはじきゲームをする。 <p>○HRTとALTの会話から何が好きかを尋ねる表現の言い方を知る。 【Let's Chant】What do you like? p.19</p>	<p>◎ (ア) 〈行動観察・振り返りカード分析〉</p>
2	<p>Today's Goal 「何が好きか(What ○○do you like?)」をたずねたり、答えたりする言い方(I like □□.)になれよう</p> <p>○ミッシング・ゲーム ○キーワードゲーム 【Let's Listen】p.20</p> <ul style="list-style-type: none"> 音声を聞いて、それぞれの登場人物が好きなものを選んで線で結ぶ。 <p>【Let's Chant】What do you like?p.19 【Let's Watch and Think】p.21</p> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物の好きなものを予想し、尋ねる。 <p>○ペアで互いに好きなもの(food・sport)を尋ねたり答えたりする。 A:What food do you like? B:I like fried natto. A:Oh,I see. / Oh,me,too. / Really?</p>	<p>◎ (イ) 〈行動観察・振り返りカード点検〉</p>
3	<p>Today's Goal 「何が好きか(What○○ do you like?)」をたずねたり、答えたり(I like □□.)してみよう</p> <p>【Let's Chant】What do you like?p.19</p> <ul style="list-style-type: none"> 音声に合わせてチャンツを言う。 <p>○ミッシングゲーム ○キーワードゲーム 【Activity1】p.20</p> <ul style="list-style-type: none"> 友だちの好きなもの(食べ物, 色, スポーツ)を予想して尋ね合う。 <p>○ペアで互いに好きなもの(animal・color)を尋ねたり答えたりする。 A:What animal do you like? B:I like dog. A:Oh,I see. / Oh,me,too. / Really?</p>	<p>◎ (ウ) 〈行動観察・振り返りカード点検〉</p>
4 本時	<p>Today's Goal 「何の○○が好きですか(What○○ do you like?)」、を使って、友だちとインタビューし合い、友だちのことをもっと知ろう</p> <p>【Let's Chant】What do you like? (食べ物編) p.19 【Activity】</p> <ul style="list-style-type: none"> Moving Chainゲームを行い、多くの友だちと好きなものを尋ねたり答えたりする。 School Outing (遠足)に行くという設定で、ペアの子とインタビューゲームをする。 	<p>◎ (エ) 〈行動観察・振り返りカード点検〉</p>

(6) 本時案

①主眼

「何の〇〇が好きですか」「わたしは〇〇が好きです」の表現に慣れ親しんできた子どもたちが、ペアで会話練習をする Rotating Chain ゲームを行ったり、クラスみんなで遠足に行くという場面で友だちとインタビューゲームを行ったりすることを通して、友だちの新たな一面を知るために、聞き手の理解の状況を確認しながら話したり、相手の発話に反応しながら聞き続けたりして、好きなものを尋ねたり答えたりしようとする。

②本時の位置 【全4時間中の第4時】

前時：「何が好きか(What〇〇 do you like?)」を尋ねたり、答えたり(I like 〇〇.)して伝え合う。

③指導上の留意点

○活動に消極的な児童には、関わることのできる児童とペアにしたり、教師やALTとペアを組んだりするなど、配慮する。

④展開

学習内容	HRTの支援と評価(※)	Time
<p>[Greetings] 1 始めの挨拶をする。 Hello, 〇〇SENSEI.〇〇SENSEI. How are you? I'm 〇〇.</p> <p>[Warming up] 2 ♪If You're Happy and You Know It♪を歌う。 3 [Let's Chant] What do you like? (食べ物編) p.19 4 Small Talk 5 今日めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>Today's Goal 「何の〇〇が好きですか」を使って友だちとインタビューし合い、友だちのことをもっと知ろう</p> </div> <p>6 今日のポイントを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>Today's Point ★笑顔でやろう ★リアクションをしよう</p> </div>	<p>○笑顔で気楽な雰囲気をつくり、挨拶をする。 Hello, everyone. How are you? I'm 〇〇. ○元気に歌を歌う。 ○最初はゆっくり、慣れたら速いスピードで、チャンツをする。 ○Small Talkの中で、遠足に行くという設定に触れ、活動への意欲を高める。 ○Today's Goalは何かを子どもに想像させ、友だちにインタビューする意欲を高めさせる。</p> <p>・インタビューをする際に気をつけることを子どもたちに質問し、子どもたちに考えさせる。 ・ホワイトボードにToday's Pointを明記する。</p>	8
<p>[Main activities] 7 Rotating Chainゲームを行う</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>《Moving Chainゲーム》 《Rotating Chainゲーム》 ①クラス全員で2列に並ぶ(AとB)。 ②A列の子が、向かい合ったB列の子に下のように尋ねる。 ③AとBの位置を変えて、B列の子がA列の子に尋ねる。 ④尋ね終わったらその場にすわる。</p> <p>(例) A:Hello! What animal do you like? B:I like dogs.Do you like dogs? A:Yes, I do. / No, I don't. B:Oh,I see. / Oh,me,too. / Really? (See you!)</p> </div>	<p>○1回目はanimalについて尋ねる。 ○テンポよく質問をし、移動する。 ○児童の実態に応じて、HRT・ALTは支援に入る。 ○2回目はペアを変えてsportについて尋ねる。 ○友だちのことで初めて知ったことがあったか、子どもに尋ねToday's Goalを意識させる。</p>	7

<p>8 School Outing (遠足)に行き、インタビューゲームをする。</p> <p>《インタビューゲーム》</p> <p>①School Outing (遠足)に行くという設定で、会場に準備してある4つのコーナー【(1)zoo(2)restaurant(3)play ground(4)T-shirt shop】にクラス全員で行き、自分でペアを探し、好きなものについて下のように尋ね合う。</p> <p>②尋ねたら、学習カードに尋ねた子の名前と好きなものを記入する(学習カードは探検バッグにはさんでおく)。</p> <p>③時間が来るまで①～②を繰り返す。</p> <p>④時間が来たら、次のコーナーへみんなで移動し、そこで再びインタビューをする(一度インタビューした子には再びできない)。</p> <p>(例) Rock,scissors,paper,One Two Three! (勝った子がA) A:Hello! What animal do you like? B:I like dogs.Do you like dogs? A:Yes, I do. / No, I don't. B:Oh,I see. / Oh,me,too. / Really? (次は交代してBが尋ねる) (See you!)</p>	<p>○クラスみんなでSchool Outing (遠足)に行くという設定をする。HRTは「Let's go to the zoo!」と言うなどして、楽しい雰囲気を作る。</p> <p>○「友だちのことをもっと知る」という活動の目的を最初に確認する。</p> <p>○各コーナーには、絵カードを貼っておき、そのカードを見ながら答えられるようにする。</p> <p>○コーナーの途中で、よい事例をみんなの前で紹介するなど、中間評価を行い、活動がねらいに沿ったものになるようにする。</p> <p>○Today's Pointを意識したインタビューをしている子を認め、褒める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※聞き手の理解の状況を確認しながら話をしたり、相手の発話に反応しながら聞き続けたりして、好きなものを尋ねたり答えたりしようとしているか。【行動観察】</p> </div>	20
<p>[Reflection]</p> <p>9 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Today's Pointを意識したやり取りができたかを振り返る。 ・振り返りカードに記入、発表する。 <p>[Closing]</p> <p>10 終わりの挨拶をする。</p> <p>Thank you for the lesson. See you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Today's Pointを意識できていた姿を認める。 ○会話の楽しさや新しい気づき等を発表させ、賞賛し合う。 ○終わりの挨拶をする。 <p>That's all for today. See you next time.</p>	10

⑤参観の視点

- (1)Rotating Chain ゲームは、School Outing で具体的にどのように尋ね合えばよいか、見通しをもつことにつながったか。
- (2)School Outing (遠足)に行くという設定をし、自分でペアを探してインタビュー活動を行い、好きなものを尋ねたり答えたりしたことは、友だちのことをもっと知ろうとすることにつながったか。

(7) 成果と課題

①成果

- ・ねらい、実態を踏まえ、概要が簡略化されていてとても分かりやすかった。
- ・友だちに伝えたい、好きなことを聞きたい、という場面設定ができていた(本時では、遠足で動物園、レストラン、プレイランド、Tシャツショップに行くという設定)。
- ・自信をもって言えるように、変化のある繰り返しで練習していることがよかった。
- ・メインアクティビティー(インタビュー活動)、リフレクションの時間を十分に取ったことがよかった。
- ・普段の授業からリアクションやジェスチャーを意識して教えてきた。子どもたちはそれを自然に使えるようになってきた。普段の授業の積み重ねが大事であるとあらためて感じた。
- ・振り返りカード…下からの積み上げでゴールに向かうという形は、ゴールが見えてよかった。他の教科にも活用できる実践である。
- ・途中で、良いグループを取り上げたのもよかった。中間評価がメリハリにもなりよかった。「笑顔」や「リアクション」がなかった児童にとっては効果的な指導だった。

②課題

- ・何のためにこの学習を行うか、必要感の設定の仕方。無理のない、子どもたちが興味をもつような流れをつくりたい。
- ・子どもたちの具体的なフィードバックの場をを広げたい。自分の学びを実感できる場面をつくりたい。そのためには、教師が常にアンテナを高くし、子どもの成長場を捉え、それを適確に子どもに伝えていきたい。
- ・子どもの意識と教師側のねらいを、きちんと合わせられるようにしたい。授業の流れ（ねらい）と、評価規準をしっかりと設定したい（Today's Goal の明確化。そこに適確につながる Today's Point の設定）。

四 研究の内容および成果・課題

2 教育課程研究協議会 北御牧中学校の実践に学ぶ

(1) 研究テーマ

全校研究テーマ

わかる・できる授業の創造～生徒が主体的に追究し、理解を深める授業を目指して～

英語科研究テーマ

自分の伝えたいことを相手とやりとりすることを通して、英語が使える喜びを実感できる授業はどうあったら良いか。

(2) テーマ設定の理由

令和3年度より全面実施となる中学校新学習指導要領には「主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業改善」を推進することが求められている。特に英語科では現中1生が3年になったときの語数は現行1200語程度から2200～2500語程度に増加し、新たに話すこと〔やりとり〕の領域が新設される。生徒たちが自分の人生や社会のあり方を深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身につけ、生涯にわたって学び続けられるように、学習の質を一層高める授業改善をしていくことが必要である。具体的には、題材のまとまりや単元の中で、ペアやグループでの対話活動の場面、教師が有効にモデルを示す場面と生徒が考える場をどのように組み立てるのか考え、実現を図っていくことが大切である。

本校生徒は、素朴で明るく、学年を問わず共に関わり、一緒に活動できる優しさを持っている。また、学習に対しては大変前向きで、苦手な教科に対しても何とかできるようになりたいという願いを持って粘り強く取り組む姿が見られる。その反面、英語学習に対しては、「英語が嫌い」「わからない」という生徒が多く、全国学力テストでは、本校他4教科や県平均と比較しても低い結果となっている。これまでの文法中心の授業や魅力の持てない題材設定、めりはりのある展開やねらいの達成の見届けをしてこなかった結果、確かな学力の定着につながっていない実態があるのではないかと考えた。

本題材では、このような生徒に、既習の英語表現、又は口語で知っている表現を用いて、英語を友達や先生と使ってコミュニケーション活動を楽しみながら、自分の伝えたいことを相手とやりとりして、英語が使える分かった喜びを実感させたいと考えた。

(3) 研究の仮説

① 単元にかかわる生徒の実態

- ・ 4月の入学時、8割の生徒が、英語が「好きではない」または「嫌い」。
- ・ 6月のアンケートが右図。

【考察】

- ・ 中学校に入学後から、学習に興味を持って取り組んでいる。
- ・ 入学後の3カ月間で、多くの生徒が、英語が好き。(好きになってきている。)

「好き」の理由

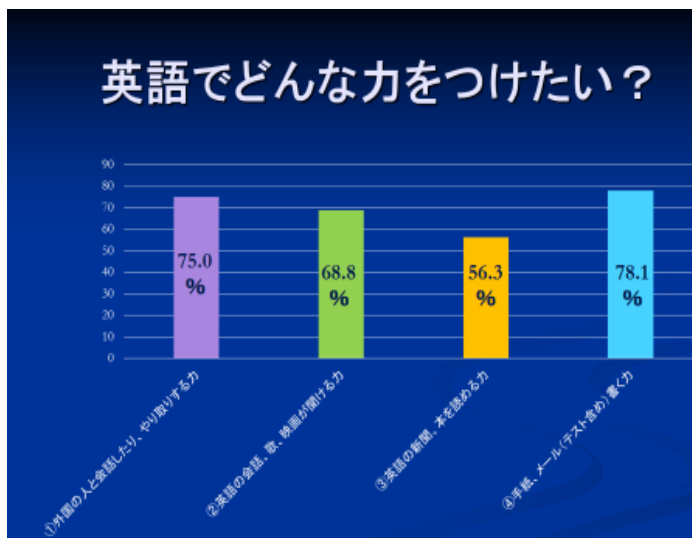
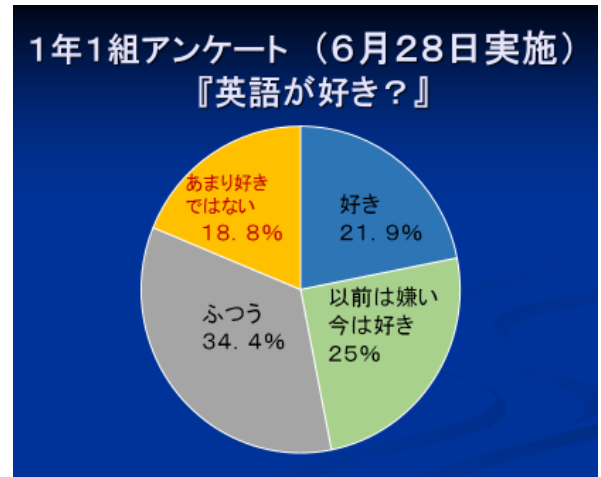
- ・ 英語で話せるようになった時が楽しいから。
- ・ できた喜びを授業の中で実感できている英語で話せるようになった時が楽しいから。⇒ できた喜びを授業の中で実感できている。⇒多くの生徒が実感できるようにしていきたい。

「以前は嫌い、今は好き」の理由

- ・ 楽しくゲームを通じて覚えらるる。・ 先生がわかりやすく言ってくれる。⇒ 楽しく、わかりやすい学習が大切。
- ・ 生きた場面で使えた喜びを感じられたことが達成感つながった。

「あまり好きではない」の理由

- ・ 時々ついていけない時がある。・ 聞いて答えることはできるが、書くことができないから。
⇒ 言語活動の繰り返しをしていく。対話活動でペアを変えることで、友達からの刺激を受け、更なる学習意欲につなげる。
話したことを書きおこさせることを通して書く力をつける。



【考察】

- ① 「外国の人と会話したり、やりとりする力」 75%
⇒ 授業の中に活動場面を仕組む
- ④ 「手紙、メール(テスト含め)書く力」 78.1%
⇒ 伝えたいことを書きおこして、書く力をつけていくことを大切にしていく。

② 仮説

(このような生徒に)

- 新しい英語がわかったり、先生の言っていることがわかるとおもしろい。
- ALTの先生と会話を楽しんだり、リスニングの練習をもっとしたい。
- 習った文を使って自分のことや、身近なことを表し、友達や他の人に伝わるとうれしい。
- 語彙の不足から初めて見る英文が読み取れない。
- 間違えることを恐れ、英語力の不足を心配するあまり、自信が持てない。
- 正しく発音、読解できず書く力が乏しい。 → わからない → 英語がきらい。

(こうすれば)

- 興味を引きやすい場面設定・活動形態（個・グループ・一斉）の工夫。
- 帯活動を充実させ、Small Talk 等を通して Input を多くする。
- 学習活動の充実をはかり、4 領域を 1 時間でバランス良く配置する。
- Today's Goal を明確に、その時間に身についたことが実感できる授業にする。
- 学習段階に応じたコース別学習の充実をはかる。（3 学年）
- 復習や次時につながり、自己表現を取り入れた家庭学習・課題の工夫。

(こうなるだろう)

- 「 ～ を外国人に伝えたい」と主体的に考え、既習表現を生かし場面に応じ適切に表現しようとする姿。
- 語彙が増え、既習表現でなくても必要感から使ってみようという態度。
- 読解や話す場面で前後関係や使用場面から推測できる。
- 英語を使う活動に慣れ親しみ、多少のミスはあっても友達と対話的な活動を楽しむ姿。
- 表面的な言葉の意味ばかりでなく、相手が意図するものを的確にとらえて、適切に対応することができる。
- 自分が表現できたことを正確に書ける。
- 英語が「わかる」 → 英語が好きになる。

(4) 単元名 「Tim 先生に北中の先生を分かりやすく紹介してみよう」(第一学年) Unit 6 (1)

(5) 単元展開及び大要 Lesson Goal:Tim 先生に北中の先生を分かりやすく紹介してみよう

主な学習内容及び活動	
1	① 帯活動 Small Talk ② Tim 先生が友達が欲しいことを知り、紹介したい北中の先生や紹介内容を考えて、北中の先生方と英語でやり取りする。
2	① 帯活動 Small Talk ② Tim 先生に北中の先生を紹介する。Tim 先生が知りたいことと紹介内容にギャップがあったので、北中の先生方にもう再度インタビューが必要なことを知る。
3	① 帯活動 Small Talk ② 第二時うまく言えず、Tim 先生から聞かれて答えられなかった内容を加えたり、三単現の s や否定文を用いて紹介内容を考えて、班同士で見合って紹介した。
4	① 帯活動 Small Talk ② つなぎ言葉、紹介内容のまとまりに目をむけて推敲した。
5	本時
6	① 帯活動 Small Talk ② 北中の先生方について分かったことについて文法に注意して書く。

(6) 本時案

①主眼

3 人称の一般動詞には S がつくことを習った生徒が、友達が欲しいと思っている Tim 先生に本校の先生方を紹介する場面で、示範発表を見たりグループ同士でアドバイスし合うことを通して、英語のリズムや声の大きさに気をつけて、Tim 先生の知りたいことを意識したまとまりのある内容で北中の先生の紹介ができる。

② Today's Goal と本時の評価

Today's Goal	Tim 先生に北中の先生を分かりやすく紹介しよう。
具体的な評価規準	英語のリズムや声の大きさに気をつけて、Tim 先生の知りたいことを意識したまとまりのある内容で紹介できる。
評価の場面	グループ内での練習の場面 全体発表の場面
評価の方法	グループ内で練習や発表場面の観察とふり返りカードの記述から判断する。

③指導上の留意点

・4人でグループ分けをし、北中の先生についてグループで紹介する。全体の前での発表に抵抗がある生徒に対してはグループの中で自然な助け合いができるよう支援する。

④展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	○ALT◎JTE・指導・評価	分
導入	1 Warm Up Small Talk	・今日のトピックは何かな。 ～の表現は何て言うのかな。 ・楽しく対話できた。新しい言い方が分かった。	◎○時事の話題について取り上げ対話する。 Do you like vegetables?など。 ◎言えなかった表現等を確認、ペアを替える。 質問を聞き取り、積極的に話そうとしたか。	4
	2 Today's goal の確認	Ex1 単調でまとまりのない例 This my friend Kyawt Kyawt San. She lives in Ueda. She likes Japanese food. She likes music. She likes skiing. She likes soba and sushi.. She likes rock music. ・1は楽しくなさそう。棒読みようだ。 ・2は英語が自然な口調だ。ジェスチャーも混ざり楽しい。詳しくまとまっている。	Ex2 期待される紹介例 This is my friend Kyawt Kyawt San. She is from Myanmar but she lives near my house. She likes soba and sushi.She also cooks very very well, so she teaches me Myanmar food. She doesn't like dogs, so she is scared of my dogs. She saw snow for the first time this year. ①アイコンタクト、ジェスチャー、自然な英語、音量 ②内容がまとまっていて詳しい内容 ◎どちらが better だったのか尋ね、1でよくなかった点も述べてもらう。	4
Today's goal : Tim 先生に北中の先生を分かりやすく紹介しよう				
	3 2グループずつ見合っ てリハーサル	・発表に備え練習を声に出してみるだろう。分かりやすく伝えるために強弱やイントネーション、内容のつながりなどに注意するだろう。	◎2グループずつ組み、気づいたことを助言し合う。 ○練習の様子を見守る。 イントネーションや伝えたいところを強調しながら練習できたか。聞き手を意識して言えたか。	7

展 開	4 Tim先生に 全体の前で北 中の先生を紹介する	<ul style="list-style-type: none"> ・英語的な発音で自然だな。 ・全体の前だと思い切って発音等するのが恥ずかしいな。 ・どんな感想、質問をされるかな。答えられるかな。 ・きちんと質問が伝わるかな。相手が分かりやすいようにイントネーションを大きめにやってみよう。ゆっくり話そう。 ・友達の発表に興味を持って聞くだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎それぞれのグループの発表を認め合う雰囲気になるよう聞く姿勢に配慮する。 ○発表中、又は後で聞きたいことがあれば聞く。感想を述べ、友達になれそうか伝える。 ◎発表が終わったら一分時間を取り、ワークシートに聞き取れたことを記入する指示。 	3 2
	<p>(本時の評価) ①相手が分かりやすいように工夫した話し方になったか。 ②相手を意識したまとまりのある内容の紹介ができた。(ワークシートとふり返しカードから</p>			
終 末	5 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を話し伝わったことが楽しかった。Timが喜んでくれたのがうれしい。 ・前回よりも分かりやすくスラスラ言えた。 ・友達の話す英語や紹介が楽しかった。 ・緊張して間違えたな。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ふり返しカード記入するよう指示。 ○今日の感想や先生方についての印象やわかったことを伝えてもらう。前回との比較も伝えてもらう。 	3

(見ていただきたい点)

○身近な本校の先生方の紹介を題材として選んだことは、英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする意欲につながったか。

○JTEの示範やグループ同士でアドバイスさせたことは、相手に伝わりやすく話したり、内容を意識させたりする上で有効だった。

(7) 成果と課題

①成果

- ・グループ同士の関わりから、ジェスチャーを使って紹介した生徒がとても満足した様子であった。
- ・自分が使える表現で発しようとしている姿がすばらしかった。
- ・アンケート結果から激変に驚いた。場面設定がよく、発表の質の高さを感じた。
- ・生徒が、英語で頭を動かしている時間が多かった。
- ・より広い世界への不安、つなげて考えを練り上げることの不安を、英語の授業を通して克服していきたいという本校の課題がよく分かる授業であった。
- ・先生方に脈絡のない質問をした段階から、Tim先生のことを考えて質問を考え、もう一回質問をすることは、言語活動の繰り返しであり大切にしたい点である。
- ・スモールトークの積み重ねでやり取りの技能が高まることが実証された。
- ・相手意識をもって、問いをもって生徒が授業に臨んでいる点が良い。

②課題

- ・「言えなかった表現」が言えるようになった生徒がいた一方、言えなかった表現を共有する場や支援があってもよかった。
- ・発表場面で、メモを取る生徒が多く、ジェスチャーを見ることが少なくなりました。また、友達から友達へのつながりをJTEが作ってもよかったか。今後ALTと1対1で話す活動も必要だと思われる。
- ・小中連携で英語嫌いを作らずにスムーズに移行できるようにする必要がある。

3 教育課程研究協議会 午後の部の研究内容

小学校の部

- (1)実施内容
- ①「授業の導入における Small Talk の模擬授業・演習」
講師：山田智寿先生（川西小）
 - ②「外国語学習についての情報交換」

(2)成果

【実施内容①に関して】

- ・ Small Talk は難しいものを準備するのではなく、その場でのリアル感（ライブ感）を大事に取り組んでいきたいと思った。（整った英語の原稿を用意しておいてそれを読んでも、リアル感がなく、聞いていて寂しいものになるような気がする。）
- ・ 山田先生の模擬授業を見て、担任1人の授業の時でもやってみようと思えた。ALT とのやりとりにこだわらず、子どもたちとのやりとりを楽しめれば…。
- ・ 各グループが作った Small Talk を貼り出し、見合う時間があつたのはよかった。時間が確保できるなら、実演形式の発表も良いと思う。
- ・ 多少失敗してしまっても、担任が積極的に英語を使う姿勢を子どもたちに見せていかないといけないと感じた。

【実施内容②に関して】

- ・ 専科の先生による授業の進め方、教材作りにどのくらいの時間をかけているか等、とても参考になる話が多く、有意義だった。
- ・ ALT の配置について、是非中学校区での配置をお願いしたい。
- ・ 小学校、中学校、養護学校それぞれでの外国語学習の実態について知ることができ、有意義な時間になった。
- ・ ALT との連携の仕方や、打ち合わせ時間の少なさに悩んでいる学校が多いことがわかった。
- ・ 外国語学習の時間に使える楽しい活動（ゲーム等）を教えていただき、参考になった。

中学校の部

- (1) 実践内容 「small talk を位置付けた授業実践」のワークショップ

(2) 成果

- ・ 気負わず少しずつ位置付けていきたいと思いました。トピックを蓄積したり、自分の感度を磨いたりしていきたいと思いました。とても参考になりました。
- ・ 毎授業でやりたいと思いました。トピックを集めることが苦手なので、少しずつためていこうと思いました。

- ・とにかく続けていくことで、「話す活動」につなげることができると思いました。
- ・正確さよりも伝えることに焦点をあてたい。日本語を使わないで会話を続けようようにこだわって教えすぎず、考えることを求めていきたい。
- ・小学校では既に実践している活動について、中学校との受け渡しはとても大切だと思いました。その点でも小中の連携が充実していくことができれば良いと実感しました。

五 研究のまとめと成果

今年度も小学校・中学校の校種を超えて、事前公開授業へ参加することができた。小学校の教員が中学校へ、中学校の教員が小学校へと異校種の授業を参観し、互いにどのような授業・活動を行っているか、さらに理解を深めることができた。小学校の教員としては、中学校でどのような学習をすることになるのか知ること、小学校段階でやっておくべきことを考えることができ、中学校の教員としては、小学校での学習内容を知ること、その学習内容を生かした指導方法を考えることができる。このことは、より効果的な指導方法につながることであると思う。

小学校の授業では、遠足で動物園、レストラン、プレイランド、Tシャツショップに行くという設定のなかで、児童たちが楽しそうに英語を話す姿が見られた。友だちに伝えたい、好きなことを聞きたいという思いを引き出せる場面設定があったからだと考えられる。普段の授業からリアクションやジェスチャーを意識して教えてきたことも、自信をもって表現することにつながっていたと思われる。普段の授業の積み重ねが大事であることも改めて感じた。

中学校の授業も、身近な先生方の紹介を題材として選んだことが、英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする意欲につながっていた。スモールトークの積み重ねでやり取りの技能が高めてきたことや、相手意識をもって授業に臨んだことが、充実した言語活動につながっていた。

小中どちらの授業においても、児童生徒が英語を使う必要感のある場面設定と、授業ごとの繰り返しや積み重ねが共通して大切であることがわかる。小学校段階では、使える言葉の制限もあり、ロールプレイのような活動が中心になるが、中学校段階では、伝える必要性のある生活の中での場面を取り上げた活動が行われていた。それぞれの段階に合わせたコミュニケーションの活動になっていて、小中の学習の共通点や相違点がよりわかりやすく感じられた。

「コミュニケーションを図ろうとする姿の育成」という共通テーマを持ち、互いの授業を参観したことは、その後の英語学習を考えるために、とても有意義なものとなった。しかし、実際の教育現場では時間がなかなか取れず、事前公開授業のように互いの授業を見合ったり意見交換をしあったりすることは難しい。教育課程研究協議会のような授業を見合う機会は重要となる。

教育課程研究協議当日は、小学校・中学校ともに同日開催で、異校種の授業を参観する先生方の人数が少ないことが課題として挙げられていた。今年度は、異校種の学校への参観を呼びかけ、より多くの先生方に異校種の参観をしてもらえるようにと考えたが、参加状況としてはまだ十分とは言えない。児童生徒がより効果的に学習できるようにするためには、小中連携して互いの学習について理解を深めることが必要である。参加人数や会場のことなどの課題があり、教育課程研究協議会の小中合同開催は難しいが、より多くの先生方が異校種の学習について知る機会を増やしていくことが望ましい。

六 委員名簿

推進係 関 茂（長門小） 委員長 堀内 宏悦（川辺小） 副委員長 清水 千恵（上田四中）
 会計 小柳 照喜（北御牧小） 記録 木内亮介（本原小） 柳橋 学（塩川小）
 櫻井 優（東塩田小） 中村 美紗（神川小） 山田 竜平（東小） 宮下 雅彦（北御牧中）
 深井 信雄（上田五中） 中村 明子（上田三中）